

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月11日現在

機関番号：33105

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2011

課題番号：22760491

研究課題名（和文）棟札・幣串に見る民家建築の近代化の様相

研究課題名（英文）Modernization of the folk house by the *MUNAFUDA, Heigushi*.

研究代表者

梅嶋 修 (UMEJIMA OSAMU)

長岡造形大学・造形学部・研究員

研究者番号：20569454

研究成果の概要（和文）：本研究は、建築儀礼の中でもとりわけ重要視されてきた上棟式の際に作成される棟札・幣串について調査を行ったものである。全国の大工職へ聞取調査（アンケート）を行った結果、上棟式の際に複数本の幣串を作成し、この内1本を小屋裏へ納め、その他は各関係職方へ配る慣習が、少なくとも大正時代以降、全国に広く分布したことが確認された。

研究成果の概要（英文）：This study investigates *Munafuda* and *Heigushi* which are made from a ceremony of putting up the ridgepole. The questionnaire was sent to carpenter of the Japan whole country. As a result, plural *Heigushi* were made from the ceremony, one was deified to the attic, and others were distributed to the construction craftsman. This custom was distributed in all parts of Japan at least after Taisho Era.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011年度	1,300,000	390,000	1,690,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学、建築史・意匠

キーワード：上棟式、幣串、御幣、幣束、アンケート、職業別電話番号帳、大工、棟梁送り

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、建築儀礼の中でもとりわけ重要視されてきた上棟式の際に作成される棟札・幣串について調査・研究を行ったものである。

建築調査及び関係団体（大工職）等への聞取調査を通して、上棟式及び棟札・幣串に関する慣習の実態・分布等を整理し、明治時代末期以降を中心として、現在までに確立された建築儀礼のあり方と成立要因、加えてそれらの地域性と歴史的・社会的背景との関係性を明らかにすることで、民家建築の生産面における近代化の様相を明らかにする。

## 2. 研究の目的

和歌山県橋本市中心市街地（橋本・古佐田・

東家地区）の町並み調査及び和歌山県・奈良県の大工職への聞取調査では、上棟式の際に複数本の幣串を作成し、この内1本を小屋裏へ納め、その他は各関係職方へ配る慣習が、少なくとも大正時代以降、当該地域に存在したことが確認された。

本研究ではこの様な上棟式における棟札・幣串の取扱について、聞取調査の範囲を広げ、日本全国における同慣習の実態を調査した。

## 3. 研究の方法

今回の聞取調査の方法としては、日本全国の職業別電話番号帳から「大工職」「宮大工」を悉皆的に選び出し、付記される所在地へ調査票を送付するアンケート形式を採用した（岩手・宮

城・福島県を除く。上記3県は平成22・2011年3月時点にアンケート未送付で、東日本大震災の影響を考慮し、調査を見送った。)。調査票においては、上棟式の幣串に関して、

- (1) 呼称
- (2) 譲受けた経験の有無
- (3) 現時点における所有の有無
- (4) 譲受けた年代と施工場所
- (5) 大工以外に譲受けた職種
- (6) その他自由記載

を質問項目として挙げ、調査票の返送をお願いした。

調査対象としては、9,476件の「大工職」「宮大工」登録が確認され、その全てへ平成22(2010)年10月～平成23(2011)年9月に調査票を送付した。この内、74件が宛所不明で返送され、342件(3.6%)から返信・回答を得ることができた。

表1 幣串の呼称 ※複数回答

呼称	回答数	呼称地域	呼称	回答数	呼称地域
御幣 (ゴヘイ)	96	図1参照	ミガワリ	1	千葉県 いすみ市
幣串 (ヘイグシ)	94		ヘイゴウシ	1	東京都 葛飾区
幣束 (ヘイソク)	25		幣神	1	東京都 西東京市
梵天 (ボンデン)	16	長野県 岐阜県 静岡県 愛媛県	閉ソク	1	新潟県 小千谷市
ノサ	7	神奈川県 静岡県	御神机 (ミタラクイ)	1	石川県 七尾市
ノサ棒	6	静岡県	ゴエイ	1	山梨県 中巨摩郡昭和町
幣	4	三重県 熊野市 三重郡菟野町 和歌山県 有田市 和歌山県 和歌山市	オンメ	1	山梨県 南都留郡 富士河口湖町
			御幣 (オンベイ)	1	長野県 長野市
			ゴ平	1	岐阜県 海津市
			天照皇 大神宮	1	岐阜県 各務原市
五幣	3	福井県 鯖江市 愛知県 岡崎市 三重県 松坂市	凡天	1	静岡県 磐田市
			ボンデン	1	静岡県 榛原郡吉田町
			真ノサ (シンノサ)	1	静岡県 藤枝市
三幣 (サンベイ)	2	群馬県 館林市 三重県 松坂市	ヌサ	1	静岡県 牧之原市
			ヌサ棒	1	静岡県 牧之原市
幣芯	2	埼玉県 深谷市 愛知県 名古屋	矢トイ	1	鹿児島県
			オタヤン	1	滋賀県 大津市
ヘイゴシ	2	東京都 大田区 静岡県 富士市	ヘエゴシ	1	滋賀県 蒲生郡日野町
			ゴヘエ	1	京都府 京都市
建前 (タチマイ)	2	石川県 金沢市 石川県 羽咋市	ヘイジク	1	大阪府 貝塚市
			ヘイチク	1	兵庫県 加古川市
棟飾り	2	静岡県 静岡市 三重県 名張市	守り	1	兵庫県 多可郡多可町
			豊穣	1	兵庫県 多可郡多可町
神御	1	秋田県 秋田市	オトボンサン	1	兵庫県 多可郡多可町
御幣串	1	秋田県 大仙市	上棟かざり	1	島根県 出雲市
ギヘイ	1	山形県 最上郡真室川町	棟神様	1	広島県 竹原市
幣塚 (ヘイソク)	1	栃木県 上都賀郡西方町	五グシ	1	広島県 府中市
ヒグシ	1	埼玉県 越谷市	御幣棒	1	香川県 高松市
ヒイグシ	1	埼玉県 飯能市			

#### 4. 研究成果

以下、各質問項目の返答に関して、分析を行いたい。

##### (1) 呼称

幣串の呼称は、大きく「幣串(ヘイグシ)」「御幣(ゴヘイ)」「幣束(ヘイソク)」の分布に区分することができる。

「幣串(ヘイグシ)」の呼称は本州を中心に全国的な分布が確認された。関西地方を中心とする「御幣(ゴヘイ)」の呼称も全国的に分布するが、関東地方では一切回答が無い。関東地方では「幣束(ヘイソク)」と呼称するが、東北及び西日本では一切回答が無い。中部地方ではこれらの呼称が混在することから、少なくとも「御幣(ゴヘイ)」「幣束(ヘイソク)」の呼称は関東・関西の文化圏で区分できるといえる。

この他、長野・岐阜・静岡・愛媛県で「梵天(ボンデン)」(但し、愛媛県では1例のみ。その他は2例以上が確認できる。)、神奈川・静岡県で「ノサ」「ノサ棒」と呼ぶ回答が多く確認された。三重・和歌山県では単に「幣」と呼ぶ。「三幣」「五幣」と呼ぶ回答もあったが、作成する本数

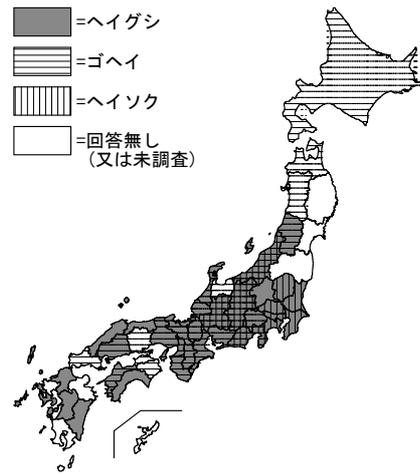


図1 呼称の分類

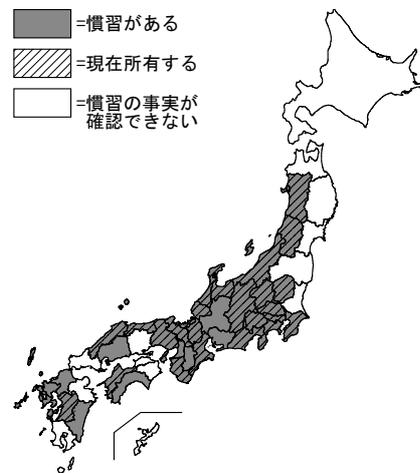


図2 慣習の有無

に由来すると推測される。

(2) 譲受けた経験の有無

31の都府県において上棟式で関係職方が幣串を譲受ける慣習が実施されたと判断できる。

なお、質問に対する錯誤があり、回答に整合性の無いものがある。本調査では

- ① 幣串を現在も所有するもの
- ② 所有したが廃棄したもの
- ③ 配布先を明確に示したもの
- ④ 自由記載に譲受けの事実を明確に示したものの(伝聞を含む)

を「上棟式で関係職方が幣串を譲受けた」と判断した。

同慣習を実施した回答は93件で、返信のあ

表2 慣習が確認された地域

	送付数 (通)	返信数 (通)	返信率 (%)	慣習が確認された地域
北海道	89	5	5.6	—
青森県	220	2	0.9	—
岩手県	—	—	—	—
宮城県	—	—	—	—
秋田県	353	8	2.3	横手市
山形県	434	12	2.8	酒田市、鶴岡市、山形市
福島県	—	—	—	—
茨城県	331	3	0.9	—
栃木県	248	8	3.2	那須郡那須町
群馬県	181	3	1.7	高崎市、館林市
埼玉県	300	10	3.3	入間郡越生町、越谷市、児玉郡神川町、坂戸市、新座市、飯能市、深谷市
千葉県	352	13	3.7	旭市、鴨川市、匝瑳市、野田市、茂原市、(香取郡多古町)
東京都	334	12	3.6	青梅市、葛飾区、墨田区、府中市
神奈川県	309	4	1.3	相模原市
山梨県	119	5	4.2	中巨摩郡昭和町、(山梨市)
新潟県	180	12	6.7	上越市、長岡市
富山県	339	3	0.9	富山市、中新川郡上市町
石川県	377	14	3.7	七尾市
福井県	244	5	2.0	大野市
長野県	117	7	6.0	飯田市、佐久市
岐阜県	397	21	5.3	岐阜市
静岡県	994	40	4.0	磐田市、掛川市、賀茂郡松崎町、菊川市、静岡市、裾野市、駿東郡清水町、榛原郡吉田町、浜松市、藤枝市、牧之原市
愛知県	644	25	3.9	知多市、豊川市、豊橋市、名古屋市、西尾市、額田郡幸田町
三重県	435	13	3.0	伊賀市、名張市
滋賀県	202	12	5.9	大津市、甲賀市、湖南市、東近江市
京都府	116	12	10.3	宇治市、京丹後市、京都市、久世郡久御山町
大阪府	109	10	9.2	堺市、枚方市
兵庫県	282	21	7.4	赤穂郡上郡町、川西市、佐用郡佐用町、多可郡多可町、豊岡市、南あわじ市
奈良県	77	1	1.3	宇陀市
和歌山県	121	2	1.7	和歌山市、橋本市
鳥取県	24	2	8.3	米子市
島根県	63	6	9.5	出雲市、松江市、安来市
岡山県	102	2	2.0	—
広島県	78	9	11.5	府中市
山口県	64	4	6.3	—
徳島県	69	3	4.3	—
香川県	137	5	3.6	—
愛媛県	149	5	3.4	東温市
高知県	172	2	1.2	—
福岡県	160	7	4.4	久留米市
佐賀県	97	1	1.0	(伊万里市)
長崎県	100	4	4.0	南島原市
熊本県	77	5	6.5	熊本市
大分県	55	1	1.8	—
宮崎県	48	1	2.1	—
鹿児島県	86	2	2.3	—
沖縄県	17	0	0.0	—
合計	9,402	342	3.6	—

※ ( ) は幣串以外の棟飾りの譲受けを示す。

った342件に対して27%である。全国で同慣習が実施されたと判断するのは早計ではあるが、広い地域で行われた慣習であることは確かといえる。同慣習を明確に「無い」とする回答もあるが、先代が譲受けた幣串を所有する事例も散見され、代替わりや時代の変化に伴い、旧来あった慣習が廃れている可能性もある。

なお、幣串以外にも弓・矢(千葉県香取郡多古町、静岡県静岡市)、尺棒、五色棒(山梨県山梨市)、幣串に付す五色の旗(静岡県藤枝市)、纏(佐賀県伊万里市)を持ち帰るといった回答があり、総じて上棟式の棟飾り(幣串、破魔弓、破魔矢等の総称)を譲受ける慣習と換言できよう。

(3) 現時点における所有の有無

現時点において譲受けた幣串を所有する回答は53件で、同慣習を実施した回答93件に対して57%となる。譲受けた幣串は床の間に飾る、工場に仕舞う、工場・自宅の建替えに伴い処分した等の回答があった。10本以上の所有は稀で、小正月の左義長等によって定期的に処分する傾向にある。

(4) 譲受けた年代と施工場所

回答において、幣串を譲受けた年代は昭和20(1945)年代～現在に至る。アンケート調査の性格上、回答者本人が昭和戦前期以前に幣串を譲受けた事例を確認することは困難であるが、前述の通り、先代が譲受けた幣串を所有する事例も散見され、現時点において同慣習は少なくとも大正時代まで遡ることができる。施工場所は大工居住地の地元、周辺市町村、隣県を中心とする。

(5) 大工以外に譲受けた職種

幣串は大工をはじめ、基礎工・地業工・石工、材木屋・木挽・製材、手伝・車力・鳶、屋根・瓦屋、左官へ配布されたという。この他、少数ではあるが建具屋、銅工・板金の回答もあり、建築工事に携わった職方に広く配布されたといえる。一方で、職方以外にも施主、神主、近親者、将来建築工事を行う人、次に出世を願う者等が挙げられ、配布先は職方に限られない可能性も指摘される。なお、大工以外は貰わないという回答もあり、幣串の作成本数、配布先には差異があることも窺える。

(6) 自由記載(譲受けに関する行事)

「棟梁送り」(長野県飯田市、静岡県牧之原市、愛知県知多市、京都府京丹後市)、「へイグシ送り」(長崎県南島原市)、「職人達が棟梁宅に弓・矢を送る行事」(山梨県坂田町、山梨県鶴岡市、千葉県香取郡多古町)等、上棟式後に棟梁率いる数名の大工が棟飾り等の式具を担いで棟梁の家へ持ち帰り、祝宴を催す行事が挙げられた。現在、施主が祝儀を大工に渡す

行為は、「棟梁送り」が起源とされる。なお、和歌山県在住の大工によると、旧来は幣串に付す金銀の房に金銭を入れ(現在は鉋くずを入れるという。)、幣串自体を上棟式の祝儀として譲受けたとされる。

上記を勘案すると、上棟式の幣串を譲受ける慣習は同行事を原形とし、時代が降るに従い簡略化が図られ、譲受けの事実のみが残った可能性も指摘される。

#### (7) まとめ

上棟式の幣串について、日本全国の大工職への聞き取り調査等をまとめた結果、上棟式における幣串の取扱について、以下の諸点が確認された。

- ① 幣串の呼称は「幣串(ヘイグシ)」「御幣(ゴヘイ)」「幣束(ヘイソク)」が多数を占め、大きく関東・関西の文化圏で区分することができる。
- ② 31の都府県において関係職方が幣串をはじめとする上棟式の棟飾りを譲受けており、同慣習は全国の広い地域で行われたといえる。
- ③ 幣串を配布する職方は、大工の他、基礎工・地業工・石工、材木屋・木挽・製材、手伝・車力・鶯、屋根・瓦屋、左官、建具屋、銅工・板金が挙げられた。但し、配布先は職方に限られない可能性も指摘される。

このような慣習が行われた地域において、幣串は建物本体に1点が残されるだけでなく、建築工事に携わった職人の子孫に伝わる可能性があり、現存する建物との整合が確認できれば建築年代を推測する貴重な一資料と成り得る。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 梅嶋修、平山育男、御船達雄、西澤哉子、上棟式の幣串について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その118、日本建築学会大会(東海)学術講演梗概集、査読無、F-2分冊、2012
- ② 平山育男、梅嶋修、西澤哉子、新潟県において幣串を妻面外側に打ち付ける事例の実態調査報告、日本建築学会北陸支部研究報告集、査読無、第55号、2012
- ③ 梅嶋修、平山育男、御船達雄、西澤哉子、橋本市橋本 火伏友典家住宅離れ座敷について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その105、日本建築学会近畿支部研究報告集、査読無、計画系

(52)、2012

- ④ 梅嶋修、平山育男、御船達雄、西澤哉子、橋本市古佐田 太田家所有の幣串について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その100、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集、査読無、F-2分冊、2011、pp. 535-536
- ⑤ 梅嶋修、平山育男、御船達雄、西澤哉子、橋本市古佐田 児島家住宅主屋について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その88、日本建築学会近畿支部研究報告集、査読無、計画系(51)、2011、pp. 877-880
- ⑥ 梅嶋修、平山育男、御船達雄、西澤哉子、近畿地方における上棟式の幣串について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その82、日本建築学会関東支部審査付き研究報告集、査読有、第6号、2011、pp. 165-168

[学会発表] (計6件)

- ① 梅嶋修、上棟式の幣串について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その118、日本建築学会大会(東海)、2012年9月12日、名古屋大学
- ② 平山育男、新潟県において幣串を妻面外側に打ち付ける事例の実態調査報告、日本建築学会北陸支部、2012年7月22日、信州大学
- ③ 梅嶋修、橋本市橋本 火伏友典家住宅離れ座敷について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その105、日本建築学会近畿支部、2012年6月17日、大阪工業技術専門学校
- ④ 梅嶋修、橋本市古佐田 太田家所有の幣串について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その100、日本建築学会大会(関東)、2011年8月23日、早稲田大学
- ⑤ 梅嶋修、橋本市古佐田 児島家住宅主屋について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その88、日本建築学会近畿支部、2011年6月18日、大阪工業技術専門学校
- ⑥ 梅嶋修、近畿地方における上棟式の幣串について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その82、日本建築学会関東支部、2011年3月3日、建築会館

6. 研究組織

(1) 研究代表者

梅嶋 修 (UMEJIMA OSAMU)  
長岡造形大学・造形学部・研究員  
研究者番号：20569454

(2) 連携研究者

平山 育男 (HIRAYAMA IKUO)  
長岡造形大学・造形学部・教授  
研究者番号：50208857

西澤 哉子 (NISHIZAWA KANAKO)  
長岡造形大学・造形学部・研究員  
研究者番号：90440453